



会場	開催日	会場
日立柏グラウンド人工芝(10時、2面同時キックオフ)	11月1日	D 明海球技場
クレンサ栄レインボーグラウンドA		E Estadio Sunfoot B(Wingsグラウンド)
Estadio Sunfoot A(Wingsグラウンド)		F クレンサ栄レインボーグラウンドA
日立柏グラウンド人工芝(10時、2面同時キックオフ)	11月8日	I 中国分スポーツ広場
Estadio Sunfoot (Wingsグラウンド)		J 袖ヶ浦少年サッカー場
日立柏グラウンド人工芝(10時、2面同時キックオフ)	11月23日	K 日立柏グラウンド人工芝(10時、2面同時キックオフ)
白井市陸上競技場/白井市4種委員会		L 白井市陸上競技場/白井市4種委員会

第39回全日本少年サッカー大会千葉県大会決勝戦 戦評

レイソルU-12 1-0 バディーSC千葉サックス
(0-0)
(1-0)

夏休みで恒例であった本大会が今年度から冬開催(12月)へ移行となった。また、年間リーグの上位チームが本大会にエントリーできることに変更された。

U-12 リーグを順当に戦ってきた柏レイソルU-12 (以下レイソル) が2年連続で決勝まで勝ち上がってきた。一方、初の決勝進出となったバディーサッカークラブ千葉サックス (以下バディー) は、準決勝は接戦で勝ち上がってきたが、両チーム実力伯仲同士の対戦は、試合前から期待できるものであった。

バディーのキックオフで試合開始。オープニングシュートは開始早々の1分レイソル⑪伊達君。バディーも5分⑱岩木君のシュートがバーを直撃。開始早々激しい打ち合いでスタートした。

9分バディー⑩松野君が絶妙なスルーパスでチャンスを演出したが、レイソルGK①伊藤君がナイスセーブを見せる。10分バディー⑲堀淵君の個人技からシュート。これは決定的な場面であった。

前半押され気味であったがレイソルだが14分⑪伊達君のミドルシュート、17分③細井君から⑨真家君へのパスからシュートがバーをたたく。どちらが先制してもおか

しくない状況のまま前半が終了した。

後半に入ってもバディーが若干優勢に試合を進める。21分バディーが絶好のチャンスを迎え得点かと思いきやオフサイド。

中盤からは攻守が入れ替わり、レイソルが攻め続ける。28分レイソル⑫市瀬君の個人技をバディーGK①前田君が素晴らしいセービングを見せる。30分レイソル⑪伊達君のセンターリングを⑨真家君のヘディングシュートと怒涛の攻めを見せ続けた。待望の先制点は34分。レイソル④大和君からのスルーパスから⑨真家君がシュート。得意とする複数の選手が絡むポゼッションサッカーを見事にゴールへ結びつけた。その後バディーもチャンスを迎えたが終了の笛。レイソルが見事全国大会への切符を勝ち取った。

上記でも述べたが今年度からレギュレーション変更があったため各チーム戸惑いもあったと思うが、年間を通じたリーグ戦を実施することにより選手個々の成長が多くみられた好ゲームが多数展開されたと認識している。

千葉県代表として2年連続全国大会出場を決めたレイソルの活躍を心から期待したい。

(文責：千葉県サッカー協会四種委員会技術部副部長 和田 治)

第 39 回全日本少年サッカー大会千葉県優秀選手

NO	氏 名	所属チーム
1	小口 航佑	ちはら台SC
2	太田 昌輝	エスフェローザ八千代
3	菱田 悠大	船橋FC
4	赤金 龍之輔	WingsU-12
5	小倉 夏希	WingsU-12
6	大貫 諒哉	市川FC
7	小寺 爽太	市川FC
8	松野 聖哉	バディーサッカークラブ千葉 サックス
9	佐久間 太一	バディーサッカークラブ千葉 サックス
10	前田 優和	バディーサッカークラブ千葉 サックス
11	小川 颯斗	バディーサッカークラブ千葉 サックス
12	伊藤 拓海	柏レイソルU-12
13	細井 響	柏レイソルU-12
14	大和 優槻	柏レイソルU-12
15	真家 英嵩	柏レイソルU-12
16	伊達 由太嘉	柏レイソルU-12